

謹み二千五百六十六年の
初春と書き奉る

三ツノ市江ノ街に於て
益井健治郎

大隈伯爵閣下
執事

再
少生は上月九日当市奥着、大出入りの午後
等も志之相済、徐之に研究を司如所居
航海旅行中は慎重に常程の印風支を蒙
れ為す所、茲に感謝の意を表す。当地に
は十四人の日本学生在任、毎の峰々、云々
所居也。(十二月廿一日)

